

第3回1M同級会の報告

2016年5月20日（金）12:00、神戸市JR灘駅に、新居浜高専1M〔機械工学科〕同級生が集合した。1～2年生の多感な時期に学級担任をしてくれた恩師、青野春水広島大学名誉教授（文学博士）と、ほとんど社会人をリタイアした18名の同級生達である。（1Eより前田君が参加）

1967年春に卒業して以来、一同に会する機会が全くなかったこのクラスが、同級会を始めたのは2年前のことである。同窓会・燧会の中国支部を立ち上げるについて、広島在住の青野先生に顧問の就任をお願いした。2013年10月に開催された「燧あきの会」発足総会の様子を、燧会のホームページに掲載した。年が変わって間もなく、神戸在住の尾野（旧姓岩崎）君から電話があり、“得居、青野先生の独り占めはずるいぞ！”と言う。そして、その年の5月に青野先生宅に近い宮島に集合することを即決した。名簿を整理して見ると、34名の卒業生のうち6名がすでに他界していた。岡君と株本君には連絡がつかなかった。（岡君とは翌年連絡が取れた）連絡のとれた26名の内19名が東京・名古屋・関西・広島・愛媛から集合してくれて、1泊2日の合宿スタイルの、実に痛快な同級会となった。

2015年5月の第2回1M同級会は、私達の原点に戻って、新居浜での開催だった。同窓会を通して母校訪問を企画したところ、谷口先生ご自身が案内役になって下さり、機械実習棟を案内して貰った。私達も使った、㈱大隈鐵工所製の旋盤（型式：LS 機番：5210 製造年月：1963.1）が有るのを見て、触れて感動したものだ。

そして次回は神戸市の開催を決めた。



2016年5月の開催は、神戸在住の尾野君、久保君が世話役となって行事の企画・準備・実行を進めてくれた。

JR 灘駅で1年ぶりに再会した面々は、歩いて「人と防災未来センター」に向かった。1995年1月17日に発生し、甚大な被害が出た「阪神・淡路大震災」の経験と教訓を未来に伝え、防災・減災社会の実現の為に必要な知識を学ぶ為の施設の見学である。まず、西館4階の1.17シアターの「5:46の衝撃」(7分間の上映)、地震破壊のすさまじさを大型映像と音響で体感した。そのあと、3階の映像・記録・語り部などで、震災の記憶を残し、復興を辿り、震災を語り継ぐ展示品を見学した。2階には、防災・減災を体験できるフロアもあり、東館にはドキュメンタリーや自然災害の防災の取り組みなどを考えるフロアを見た。

JR 新長田駅まで移動した。南口から徒歩5分、ジョイプラザ裏手の若松公園に有る巨大な「鉄人28号」モニュメントがお目当てだ。神戸市出身で新長田にゆかりの深い漫画家横山光輝氏の代表作に登場する鉄人28号を、震災復興のシンボルとして地元の商店街が中心となって建てたのだそうだ。

昭和39年、そう東京オリンピックの年に、第一回高専体育祭が開催された。機械・電気・化学の3学科がそれぞれ立体アーチを作った。我ら機械は、高さ10m程もある鉄人28号の像を建てた。どうやら真鍋君の原設計だったらしいが、何が出来るのかよく知らされてなかった。製作作業が始まって、参加者も少数で、盛り上がりず作業も遅々として進まなかった。ある日、あの物静かだった笠井君が、えらい剣幕で発破を掛け号令した。全体像がイメージできる様になってからの団結は素晴らしかった。現在の建設業法では、決して許されない高所作業だった。

JR 神戸駅前、ハーバーランド入り口の「万葉倶楽部」に投宿し、合宿した。3時間の宴会の後にも、全員が幹事達の部屋に集まり、夜半まで語り合った。最後に喧々諤々の討議の結果、来年の開催地を原点の新居浜に決めた。

翌朝、来年の元気な再会を約束して散会した。

(有志5名が、六甲山から有馬温泉までのツアーに出かけたそうだ。)



2016年5月30日

行事担当：尾野邦隆、久保建次、河合信也 文責：得居莞治